

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	対話コミュニティCOCOCHI	
まちづくり 活 動 名	大野木みんなでまちづくりプロジェクト	
活 動 地 域	名古屋市西区大野木	
活 動 の 背 景	自分たちの地域に「大人も子どもも楽しみながらつながれる場を作りたい」という思いからスタート。子育て世代が中心となり、地域の多様な世代と「対話」を重ねながら、共にまちを育む活動を展開していく。現代では地域コミュニティが希薄化し、子育て世代が孤立しがちである。そこで、まずは「対話の場」を作り、共感を育むことで、自然にまちづくりへの関心を高めていくことを目指している。	
目的・目標	■目的 ・子育て世代が中心となり、地域の多世代交流を促進し、住民同士が自然に集まれるサードプレイスを作ること。 ・対話を軸に、まちの課題を共有し、共に解決策を見出すプロセスを育むこと。 ■目標 ・対話の場を通じて、子育て世代が抱える悩みやアイデアを共有できる関係性を構築する。 ・小さな成功体験を積み重ね、地域が主体となって実践できる活動モデルを確立する。 ■成果 ・地域コミュニティの活性化と、参加者同士のつながり強化。 ・子育て世代を中心にしたイベント開催数や参加者数の増加。 ・地域住民の対話力向上と、まちづくりに対する意識の高まり。	
活 動 内 容	① 対話カフェの開催 子育て世代を中心に、気軽に集まれる対話の場をつくる。 ② アイデア共有ワークショップ ワークショップ形式で「まちづくりアイデア交換会」を実施。参加者が自由に意見を出し合い、実現可能なプランを作成。 ③ 小規模イベントの実施 対話で出たアイデアを形にするイベントを開催。実施後は振り返りの対話会を行い、次に活かすための意見を共有。 ④ 地域連携活動 学区内の自治会や地域団体と連携し、共同イベントや情報共有を推進。地域資源を活かし、多世代が楽しめる企画を検討。	
活 動 予 定 間 期	令和7年 6月 ～ 令和8年 1月	
助成金交付申 請 額	50,000 円	※1回目（上限5万円） ※2回目、3回目（上限10万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
	・対話カフェやアイデア共有ワークショップを通じて、地域住民が気軽に集まり、地域課題やまちづくりのアイデアを共有できる場をつくる。 ・特に子育て世代が中心となり、地域の多様な世代と共に考え、実践していくことで、地域コミュニティの活性化を図る。 ・対話や小規模イベントを通じて、子育て世代だけでなく、高齢者や若者も巻き込み、自然に参加できる雰囲気をつくる。
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
	・対話カフェや小規模イベントは、会場使用料、消耗品、印刷製本費などを見込み、無理のない予算で実施可能。 ・協力団体(NPO 法人教員副業コーディネーターまちまち)や地域ボランティア(大野木学区地域支え合い事業)の活用により、人件費を抑え、参加費も検討して自立運営を目指す。 ・子育て世代を中心に、地域の協力者や自治会と連携し、役割分担を明確にすることで、無理なく活動が継続できる。
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
	・この活動を通じて、イベント参加者からメンバーになる人を増やし、プロジェクトの仲間づくりを進める。(大野木学区地域支えあい事業への登録) ・対話や小規模イベントを重ねることで、地域のコミュニティ意識が高まり、まち全体が明るく前向きな雰囲気になっていくことを目指す。 ・活動を継続しながら、参加者や地域住民の意識向上や交流拡大を図り、まちづくり活動のモデルケースとして発展させていく。

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
・大野木学区自治会	・回覧板での活動のお知らせを告知していただくように、お願いします。
・特定非営利法人 教員副業コーディネーターまちまち	・教員による地域貢献活動の場として、活動に協力していただく。

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2025	4	打合せ	・活動内容、実施日など、団体内で検討会議
	5	申請書提出	・申請書の作成、提出
	6	助成決定後打合せ	・活動内容の確認と役割分担の決定 ・実施スケジュールの策定 ・チラシ作成とSNS投稿の準備 ・地域の掲示板や自治会への告知依頼
	7	第1回 対話カフェ開催	テーマ：「まちの好きなところ」 「子育ての悩み」 ※大野木コミュニティセンターで開催予定
	8	アイデア共有 ワークショップ	・まちづくりのアイデア交換会をワークショップ形式で実施する。意見を出し合い、テーマを絞り込む。 ・次回イベントの告知 ※大野木コミュニティセンターで開催予定
	9	第2回 対話カフェ開催	テーマ：「まちづくりアイデアの具体化」 「次のステップ」 ※大野木コミュニティセンターで開催予定
	10	小規模イベント準備	・アイデア共有ワークショップで出たテーマと対話カフェの内容をもとに、イベント内容を決定する。 ・必要物資や協力者リストの確認。 ・小規模イベントの開催告知（SNS、地域掲示板、回覧板）
	11	小規模イベント開催	例：子育て交流会、親子工作ワークショップ おゆずり会、昔遊び体験会等 ・参加者アンケートを回収し、次回につなげる ※大野木コミュニティセンターで開催予定
	12	総括イベントと交流会	・活動の振り返りと感謝の場として実施する ・参加者からのフィードバックを集め、次年度に活かす ※大野木コミュニティセンターで開催予定
2026	1	活動の報告の打合せ & 提出	・今年の活動を振り返りながら活動実績報告書の作成
	2		
	3		

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				50,000
活動経費の内訳	消耗品費	対話カフェ ワークショップ イベント全般	・クリップボード、模造紙、付箋紙 など事務用品 ・茶菓子、飲み物代	5,000 5,000
	印刷製本費	各イベント毎	案内チラシA4サイズ ・対話カフェ① 100部 ・ワークショップ 300部 ・対話カフェ② 100部 ・イベント 500部	10,000
	物品費	対話カフェ	TFAカード ※自由資料参照	4,730
	資料費	アイデア共有 ワークショップ	まちづくり参考文献	4,270
	使用料 及び貸借料	対話カフェ ワークショップ イベント全般	施設利用料 (大野木コミュニティセンター) 5回(7・8・9・11・12月)× 3,200円	16,000
	保険料	11月の 小規模イベント	参加者の傷害保険 100円×50名 (社会福祉協議会保険) ※イベント1回のみの保険	5,000
支出合計				50,000

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。